

授業科目名		保健学研究方法論					
担当者	富樫誠二・大塚彰・宮崎洋幸・藤村昌彦・田丸政男・丹羽敦・山本カヨ子・山口扶弥・北原悦子					履修区分	必修
開講年次	1年次	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 健康科学における研究の基本的な考え方と進め方について学修する。自己の疑問から研究課題への絞り込み、文献検索の意義と方法、課題に応じた研究方法・やデータ解析の方法および倫理的配慮などを踏まえた研究計画書の作成を学修する。さらに、研究成果の発表の方法も身につける。							
(到達目標) 1. チーム医療の概要と現状の課題、及び今後の展望について理解している。 2. 効果的な医療連携のあり方について、自分の意見を他者に論理立てて説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
しっかり、関連する課題について予習しておいて下さい。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1・2	これまでの学習経験や施設実習、臨床現場等において感じる疑問や、興味を引かれる現象などについてグループワーク形式で議論を行い、その過程でサーチクエスションの設定について学修する。						富樫 誠二
3・4	研究の基本的なスキルの1つである文献検索の方法論について学修する。保健学の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索する方法を学修する。医学文献データベース、有用なWebサイト、本学で利用可能な情報リソースの基礎的事項を紹介し、その活用法の修得を目指す。						大塚 彰
5・6	研究を実施する際、研究テーマによってそれぞれ研究法は異なってくる。本授業では、実験的研究、観察的研究、調査研究などの研究方法を紹介するとともに、研究テーマに適した研究方法の選択について理解を深める。						宮崎 洋幸
7・8	健康増進に関しての行動科学的アプローチとして、人々の生活と健康レベルの関連に関する理論と実証的研究方法について学修し、疾病予防・健康増進の可能性について理解を深める。						藤村 昌彦
9	社会から信頼される医療分野の研究者となるため、研究者としての「責任ある行動」とは何かについて考察する。具体的には、研究倫理の必要性、研究者の不正行為、研究発表の倫理について、事例を通じた学修を行う。						田丸政男
10・11	アンケート調査を実施するにあたり、KJ法、要因図を活用した研究計画の立案、および調査に必要な不可欠である調査票の設計(項目の作成)について学修する。						丹羽 敦
12	質的研究のタイプ別分類とアプローチについて、その基本的な考え方と技法を理解する。質的研究方法を実際のデータを用いて分析する取り組み、分析手順を理解する。						山本 カヨ子
13	既存のデータを活用し、社会環境条件から要因を探る方法について学修する。また、人々の意識や行動等の実態調査により課題を明らかにする方法についても学修する。						山口 扶弥
14・15	研究成果のプレゼンテーションについて、教員によるデモンストレーションとプレゼンテーションにおいて工夫する点、プレゼンテーションの心構え等の講義により理解を深める。						北原 悦子
成績評価方法							
レポート 100%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
※授業において、適宜資料配布							
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
※授業内に、適宜紹介							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
講義後に質問を受け付けます。また、E-mail 若しくはオフィスアワーも活用してください。							

授業科目名	医療概論						
担当者	北原悦子・河野修興・本多留美・谷川良博・富樫誠二・大塚彰・沼田郁子・山本カヨ子					履修区分	必修
開講年次	1年次	開講期	前期	授業回数	8	単位数	1単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 本授業では保健学研究に必要な医療概論をテーマとする。医学、看護学、リハビリテーション学における大学院修士課程の研究の在り方について理解する。我が国における医療体制の全体像を学修させることにより、現在の医療の問題点と将来の発展性について課題を絞り、討論を実施する。具体的には、患者や一般市民と医療者との関係、医療システム、健康概念、予防医学、将来展望などである。							
(到達目標) 1. 研究に必要な医療概論について理解できる 2. 我が国の医療体制の全体像を知り、医療の問題点が理解できる							
履修における注意事項(受講ルールなど) 講義では全体的な概論を学び、討論に於いては、自らの意見を述べ我が国における医療について考える力を養います。しっかり、関連する課題について予習しておいて下さい。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	我が国における医療体制の全体像を把握するため、現在の医療の問題点と将来の発展性について、看護師から見た医療のあり方について討論形式により学修する。						北原
2	我が国における医療体制の全体像を把握するため、現在の医療の問題点と将来の発展性について、医師から見た医療のあり方について討論形式により学修する。						河野
3	我が国における医療体制の全体像を把握するため、現在の医療の問題点と将来の発展性について、言語聴覚士から見た医療のあり方について討論形式により学修する。						本多
4	我が国における医療体制の全体像を把握するため、現在の医療の問題点と将来の発展性について、作業療法士から見た医療のあり方について討論形式により学修する。						谷川
5	我が国における医療体制の全体像を把握するため、現在の医療の問題点と将来の発展性について、理学療法士から見た医療のあり方について討論形式により学修する。						富樫
6	我が国における医療体制の全体像を把握するため、現在の医療の問題点と将来の発展性について、健康概念とリハビリテーションについて討論形式により学修する。						大塚
7	我が国における医療体制の全体像を把握するため、現在の医療の問題点と将来の発展性について、患者や一般市民が望む生活支援について討論形式により学修する。						沼田
8	我が国における医療体制の全体像を把握するため、現在の医療の問題点と将来の発展性に関する一連の討論を踏まえて、健康の社会的決定要因や健康格差の社会経済的要因などに関して考察する。						山本
成績評価方法 レポート 100%: 毎回授業終了後にレポートを提出してもらい(合計8回)、評価する。 <b>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</b>							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
特に指定なし							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
地域包括ケアと地域医療連携		二木立		勁草書房		978-4-326-70087-5	
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。 講義後に質問を受け付けます。また、E-mail 若しくはオフィスアワーも活用してください。							

授業科目名	チーム医療論						
担当者	河野修興・富樫誠二・近藤敏・山本カヨ子・畠山京子					履修区分	必修
開講年次	2年次	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 現代医療・看護が高度細分化していく今、医師、看護師だけでなく臨床検査技師、レントゲン技師、薬剤師、PT、OT、社会福祉士、介護福祉士などの多くの医療職の連携が、急性期、慢性期を問わず必要不可欠になっている。患者を中心に据え、効果的な医療連携の在り方やチーム医療とは何かについて概説する。							
(到達目標) 1. チーム医療の概要と現状の課題、及び今後の展望について理解している。 2. 効果的な医療連携のあり方について、自分の意見を他者に論理立てて説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
しっかり、関連する課題について予習しておいて下さい。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	チーム医療の基本的考え方及び求められる資質と今日的課題について考察する。また、チーム医療における医療専門職に期待される役割として、医師としての役割について理解を深める。						河野
2	地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について理解する。						富樫
3	リハビリテーションチームの推進の目的と、その必要性について理解する。						富樫
4	さまざまなチーム医療(褥瘡管理・栄養サポート・糖尿病管理チームなど)における理学療法士の役割や今後の展望について考察する。						富樫
5・6	医療従事者の倫理的ディレンマについて事例を通して学修する。何がジレンマなのかを明らかにし、2つ以上の異なる考えがどのような信念や価値観、倫理的原理に基づいているか考え、その考えに基づく行動の結果生じるプラス面とマイナス面を学修する。						近藤 近藤
7	チーム医療における医療専門職に期待される役割として、チーム医療の中核を担う中核的存在としての看護師の役割について学修する。また、地域包括ケアシステムにおける医療チームの実際についても理解を深める。						山本
8	チーム医療における医療専門職に期待される役割として、社会福祉士、精神保健福祉士といったソーシャルワーカーとしての役割について理解を深める。						畠山
成績評価方法							
レポート 100%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※授業において、適宜資料配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※授業内に、適宜紹介							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
講義後に質問を受け付けます。また、E-mail 若しくはオフィスアワーも活用してください。							

授業科目名	英語文献講読						
担当者	戸谷 敦子					履修区分	必修
開講年次	1年次	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 医療・保健学系の新聞記事やテキスト・文献の読解を通して、基本的な英語力を身につける。保健学分野の英語論文の読み方について、論文中によく出てくる専門用語、独特の表現、文法上の注意点、英語論文特有の論理性や考察の仕方、文脈の把握について理解する。上記の文書を辞書を活用して自力で読解力を養う。							
(到達目標) ① 英語で書かれた新聞記事や学術雑誌の論文、国際機関の報告書、書籍等を読解する能力を身につけ、英語での論文作成にも役立つ。 ② 英語文献をクリティークしながら、文献の構造を把握して読み進めることができる能力を身につける。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
英語文献の読解に必要な辞書を持参して下さい。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	イントロダクション: 講義のガイダンス、英語論文の構造、読み方等について理解する。						戸谷
2	医療関係分野の英語論文の Abstract を読み、構造、用語、読み方を理解する。						戸谷
3	英語文献の講読(1) 医療関係分野の英文をクリティークしながら読み進める。						戸谷
4	英語文献の講読(2)						戸谷
5	英語文献の検索と読解: 英語環境でのリサーチスキルを学び、学生自身が興味のあるテーマで論文を探し出す。						戸谷
6	英語文献の講読(3)						戸谷
7	英語文献の講読(4)						戸谷
8	プレゼンテーション: 各自が選択した文献を用いた論文抄読会						戸谷
成績評価方法							
授業内テスト 50% プレゼンテーション 25% 提出物 25% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※適宜プリント等を配布します。							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
国際会議・スピーチ・研究発表の英語表現		石井隆之		ベレ出版			
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。 講義後に質問等を受け付けます。							

授業科目名	医療倫理学						
担当者	岡本慎平					履修区分	必修
開講年次	1年次	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
授業の概要・到達目標							
(概要) ここ数10年の医学・医療技術の飛躍的な進展は、倫理的問題を抱えた新しい状況を医療現場に出現させた。死の定義、人権、生命の質への問といった諸問題が従来の医療者の倫理的対応に変更を求めており、臨床では具体的な決断も迫られている。医療倫理学について、基礎から臨床問題までその全体像を講義する。様々な医療実践上の倫理問題について、論点を把握して課題を整理し、参加者一人一人に自らの問題として考えてもらう。							
(到達目標) 現代医療における様々な課題を認識するとともに、それを法令遵守にとどまらない倫理的観点から考察する能力を養うことを目標とする。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、その授業であつた内容について自分の意見を書いてもらう時間をとる。そのため、受け身で聞くだけでなく、例示された問題について自分だったらどのように考えるか、またその判断の根拠は何か、といった考察をしてもらいたい。</li> <li>・倫理学は、我々の身の回りにある見えない規範を立ち止まって考えていく学問です。授業であつた倫理問題についても、日常生活で同様の問題はないか等、自分の生活の見直しにつなげてほしい。</li> </ul>							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があつた上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	イントロダクション: 倫理がなぜ必要か						岡本
2	倫理学の基本的な諸理論について概観する。						岡本
3	多様な視点について学ぶ: ジェンダー・文化・宗教						岡本
4	医療者・患者の関係と終末期の対応について考察する。						岡本
5	21世紀の医療倫理問題について考察する。						岡本
6	医学研究と研究公正について考察する。						岡本
7	公衆衛生の倫理問題について考察する。						岡本
8	医療資源のグローバルな不平等について考察する。						岡本
成績評価方法							
毎回提出してもらうコメントシートの内容(30%)と定期試験・レポート(70%)によって総合的に判断する。							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※資料を適宜配布します。							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
生命倫理学とは何か: 入門から先端へ		アラスデア・V・キャンベル		勁草書房		978-4-326-10255-6	
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
メールアドレス: shimokamoto@gmail.com							

授業科目名	地域包括ケア論						
担当者	河野修興・山本カヨ子・平岩和美・神崎匠世					履修区分	必修
開講年次	2年次	開講期	前期	授業回数	8	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 地域の实情に応じて、高齢者や地域で生活している人々が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じ自立した生活を営むことができるように、医療、介護、介護予防、住まい、及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制について学修する。							
(到達目標) 1. 地域で生活するさまざまな健康状態にある人・家族を支援する諸制度と社会資源を理解する。 2. 地域住民の健康レベルに合わせた支援を考えることができる。 3. 支援システムとしての地域包括ケアの内容を理解する。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	医療介護をめぐる動きや医療機関の機能分化・強化と連携等について学修し、最近起こっている地域医療構想や骨太戦略と言われる再興戦略2015などにも触れ、これからの医療介護の課題について考察する。						河野
2	地域包括ケアシステムの歴史と概念の変遷について概観しながら、その機能や役割を理解し、わが国の地域包括ケアの課題を考察する。						山本
3	地域包括ケアシステムに関する国際的な研究動向について概観し、国際比較を行うことで我が国における地域包括ケアシステムの現状と課題について検討する。						山本
4	日常生活支援を基盤にして、同職種、他職種と連携、協働のあり方を学び、実践を通じて機能をネットワークする、マネジメントするという地域包括ケアの今後について議論を通じて考察する。						山本
5	地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションの役割、位置づけについて検討する。また、地域リハビリテーションのサービスシステムを検討し、現状と課題を学修する。						富樫
6・7	地域包括ケアシステムの現状と課題をふまえ、在宅ケアにおける退院支援、調整、継続看護の視点を含めた看護職の役割を学修する。						神崎
8	居宅で生活する療養者や障害をもつ人、また虚弱な人を対象とする在宅療養者とその家族に対する支援および課題について、事例を交えながら考察する。						神崎
成績評価方法							
レポート 100%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※資料を適宜配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
授業内において、その都度紹介します。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
講義後に質問を受け付けます。また、E-mail 若しくはオフィスアワーも活用してください。							

授業科目名	放射線と健康科学						
担当者	河野修興・田丸政男					履修区分	必修
開講年次	1年次	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
授業の概要・到達目標							
(概要) <p>本学の学章には平和公園の灯火をイメージしたデザインが刻み込まれているように、ひろしまのこころを学ぶ平和学は大切な科目と捉えている。被爆地広島医療の歴史を振り返りながら、人々の生命や健康の安全を脅かす放射線について学ぶとともに、現代医療の最先端で利用されている検査機器による放射線診断学と、がんの放射線治療学など医療への貢献についても学び、地域性を活かしたひろしまの医療と健康科学について学修する。</p>							
(到達目標) <p>1. 被爆地である広島の戦後医療の歴史について体系的に理解している。  2. 放射線診断学及び治療学の最新の研究動向について把握している。</p>							
履修における注意事項(受講ルールなど) <p>事前に提示する課題を自己学習して講義に臨み、討論に於いては積極的に参加すること</p>							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	広島戦後医療の歴史について、被爆者の呼吸器障害について						河野
2	広島市における被爆者の健康障害の取り組みについて (ゲストスピーカー: 藤原佐枝子 所長【原爆後障害対策協議会】)						藤原
3	放射線診断学について (ゲストスピーカー: 粟井和夫 教授【広島大学大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門】)						粟井
4	放射線治療学について (ゲストスピーカー: 永田 靖 教授【広島大学大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門】)						永田
5	電磁波の一つである放射線の基礎とその生物学的効果について						田丸
6	日米共同研究による被爆者の健康調査について (ゲストスピーカー: 楠洋一郎 部長【放射線影響研究所 分子生命科学部】)						楠
7	三大学(広島大学・長崎大学・福島医科大)ネットワークによる放射線障害研究への取り組み (ゲストスピーカー: 松浦信也 教授【広島大学原爆放射線医科学研究所 ゲノム障害医学研究センター】)						松浦
8	福島原発事故と健康への影響について (ゲストスピーカー: 神谷研二 教授【福島県立医科大学副学長】)						神谷
成績評価方法							
レポート 100%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※授業において、適宜資料配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※授業内に、適宜紹介							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
講義後に質問を受け付けます。また、E-mail 若しくはオフィスパワーも活用してください。							

授業科目名	生活と動作						
担当者	伊藤祥史・平井秀雄					履修区分	選択
開講年次	2年次	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 人間が行なう種々の動作について、そのメカニズムを把握することや臨床における動作能力障害に関する問題を解決するための一手段として人間の動きを力学的に分析することは重要である。そのために床反力計、モーションキャプチャー等の機材の基礎原理を学ぶ。							
(到達目標) 各疾患における生活と動作能力特性と、その特性によって引き起こされる動作障害の特徴を把握できること							
履修における注意事項(受講ルールなど) 事前に提示する課題を自己学習して講義に臨み、積極的に討議に参加すること。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	日常生活に必要な生活と動作について						伊藤
2	脳血管障害患者の生活と動作①						伊藤
3	脳血管障害患者の生活と動作②						伊藤
4	整形疾患患者の生活と動作①						伊藤
5	整形疾患患者の生活と動作②						伊藤
6	内部疾患患者の生活と動作①						伊藤
7	内部疾患患者の生活と動作②						伊藤
8	小児疾患と脳性まひの生活と動作①						平井
9	小児疾患と脳性まひの生活と動作②						平井
10	人工関節患者の生活と動作①						平井
11	人工関節患者の生活と動作②						平井
12	神経・筋疾患患者の生活と動作①						平井
13	神経・筋疾患患者の生活と動作②						平井
14	高齢者の生活と動作①						平井
15	高齢者の生活と動作②						平井
成績評価方法 目標の到達度（講義全てが終了した後に実施するテストにより確認） 40%、レポート 60%  ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※授業において、適宜資料配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※その都度紹介する。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。 講義後に質問を受け付けます。また、E-mail 若しくはオフィスアワーも活用してください。							



授業科目名	食と生活						
担当者	平尾文					履修区分	選択
開講年次	2年次	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 食事は、すべての人が毎日繰り返し行う日常生活の一場面である。食事は当たり前のこと過ぎて軽視されがちであるが、私たちの心身は食べた物でできている。そう考えると「何をどう食べるか」かが、実は重要なのである。「何を」は自分で選ぶ食物であり、「どう食べるか」に関しては、実は全身が関与している。「食」と「生活」さらに「全身」との関連や重要性について、実技を交えながら考えていく。							
(到達目標) ・「食」が心身を作っていること・全身と関連があることについて、理解したことを自分の言葉で述べることができる。 ・受講前と受講後の自分自身の「食」と「生活」について変化の有無等を述べるができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・携帯電話は使用禁止 ・配布資料に関しては各自大事に保管してください							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	オリエンテーション						平尾
2	「食」とは何か						平尾
3	摂食実技(自力摂取編)						平尾
4	「食」の選択について						平尾
5	摂食実技(介助編)						平尾
6	「食べ方」の影響について①						平尾
7	「食べ方」の影響について②						平尾
8	「食べ方」の影響について③						平尾
9	「テイスト」実践						平尾
10	「食」に対する実際の取り組み①						平尾
11	「食」に対する実際の取り組み②						平尾
12	「食」に対する実際の取り組み③						平尾
13	「食」についての調査(昔編)						平尾
14	「食」についての調査(現代編)						平尾
15	まとめ						平尾
成績評価方法							
個人レポート 70%・グループ・プレゼンテーション 30%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
食卓の向こう側 コミック編1		魚戸おさむ・佐藤弘		西日本新聞社			
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※授業内に、その都度紹介							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
パソコンのアドレスまでメールを送ってください。 aya.72710@hcu.ac.jp							

授業科目名	保健医療メディアリテラシー						
担当者	田中稔次朗					履修区分	選択
開講年次	2年次	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 今日の高度情報化社会では、新聞やテレビなどのマスメディア、書籍や雑誌など出版物、インターネットにおいて無数のメディア情報が存在している。それらのメディア情報から必要なものを抜き出し、内容を評価・識別し活用する能力をメディアリテラシーと呼ぶ。特に、保健医療に関する情報は、健康と生命に係るのでその内容の真偽、効果など慎重な判断が求められる。この授業は、メディアのもつバイアスを把握し、批判的視点と偏りのない思考を養い、メディアの保健医療情報に関して根拠を持って判断する能力(EBM)を養うことが目的である。							
(到達目標) メディア情報を評価・識別し、情報を批判的に読み取る力を養い、保健医療情報に対して根拠を持って判断する姿勢・態度(EBM)の重要性に気付くこと。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業は事例研究を中心にセミナー形式で行うので、セミナー担当者だけでなく全員が当該授業に関する文献・資料を予め目を通して自分の疑問点や課題を見つけておくことが必要である。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	メディアの歴史とその背景;メディアの誕生の歴史を概観し、現在あたり前となっているメディアがどう社会的に構築されたのかについて理解を深める。						田中
2	インターネット社会のメディア構造:インターネットの基礎的なしくみ、インターネットメディアの特性を知り、これまでのメディアとは異なるインターネット独自のリテラシーを理解する。						田中
3	広告の効果とその影響力:広告が企業ブランドや商品ブランドを構築するのに貢献し、流行を生み出し、新しいライフスタイルを広める等、社会・文化的にも影響力を及ぼしていることについて理解する。						田中
4	海外におけるメディアリテラシー:海外と日本とのメディアの構造・機能、影響の違いについて理解する。						田中
5	新聞・雑誌における保健医療メディア情報:新聞・雑誌媒体からのメディアを通したヘルスプロモーションについて考察する。						田中
6	テレビにおける保健医療メディア情報:テレビによる報道等を通したヘルスプロモーションについて考察する。						田中
7	インターネットにおける保健医療メディア情報:インターネットによるメディアを通したヘルスプロモーションについて考察する。						田中
8	メディアの保健医療情報とEBM:マスメディア、インターネットの提供する健康関連記事等は人々にとって健康に関する最大の情報源となりうるが、これらメディアの健康関連情報に関して根拠を持って判断する能力(EBM)の重要性について考える。						田中
成績評価方法							
課題 60%、筆記試験 40%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※適宜プリント等を配布します。							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※授業内において適宜紹介します。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
メールアドレス:tanaka_hei@yahoo.co.jp							

授業科目名	地域医療論						
担当者	平岩和美					履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 地域とは、文化と生活の利害を共有するコミュニティである。我が国における医療福祉の発展は、長寿社会を確立した。一方で高齢化の進行と、それに伴う社会保障費の増大は国民の大きな負担となっている。高齢者・障害者となっても、住み慣れた地域社会でその人らしく安心して暮らせるように、他職種と協働して支援するための方法を理解する。保健・医療・福祉政策の現状を学び、これからの健康課題と対策などについて考える。							
(到達目標) 医療・介護周辺の社会保障制度の現状と課題が整理できる。地域の特徴に応じた医療・介護提供、連携体制を提案できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
臨床での疑問点を理論構築に繋げるためには保健領域に限らず、社会学や政策学、経済学などの横断的な知識が必要とされます。幅広く考えるために参考書に目を通してください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	これまでの社会保障改革と地域の課題						平岩
2	政策分析の基礎						平岩
3	医療・介護政策の課題と展望						平岩
4	医療・介護・保健・福祉に関連した行政計画						平岩
5	組織理解の基本概念・主体間連携の効果と課題						平岩
6	医療組織の特徴とマネジメント						平岩
7	地域医療における多様な主体とその役割・地域包括ケアシステム						平岩
8	地域における多様な主体のマネジメント						平岩
成績評価方法							
レポート100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
介護予防・地域包括ケアと主体間連携		平岩和美		大学教育出版		978-4864294652	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
講座医療経済・政策学第3巻 保健医療提供制度		田中滋・二木立		劉草書房		4-326-74833-8	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
参考図書をその都度紹介します。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
平岩和美:309教員室 hiraiwa@hcu.ac.jp							

授業科目名	保健統計学						
担当者	中尾 走					履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 保健学分野における科学的実践活動及び研究で使用される主要な統計学的手法と解析法を取り上げ、目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法を習得する。保健学分野で取り扱う臨床データ、実験データ、調査データを念頭に、パラメトリックな手法や単変量解析にとどまらず、ノンパラメトリックな手法、多変量解析、時系列解析なども取り扱う。また、国や地方自治体が発行・公表している主要な厚生統計調査など保健統計情報の見方と活用法についても理解を深める。							
(到達目標) ①保健学分野の調査研究や実践で活用できるよう、統計学の基礎知識を学ぶ。 ②実際に統計解析ソフトを用いてデータ分析を演習し、定量分析のスキルを習得していく。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
わからない統計解析用語があれば、その度、下記(参考書)の事典等で調べ理解しておくこと。 基本的なことは、グーグル先生に聞くこと。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	数学的基礎知識(有効桁数、対数、無理数、関数、二次元プロット)						中尾
2	保健統計の必要性、尺度と度数分布 (統計資料の尺度、度数分布表、度数分布図)						
3	代表値(平均値、中央値、四分位数、百分位数、最頻値)						
4	散布度(標準偏差、範囲、四分位偏差、平均偏差、変異係数)						
5	相関と回帰(相関係数、回帰直線)						
6	確率・順列・組み合わせ(確率の加法定理と乗法定理、順列、組み合わせ)						
7	確率分布(正規分布とその性質、カイ二乗分布、t分布、F分布)						
8	確率分布(一様分布、二項分布、指数分布、ポアソン分布、幾何分布)						
9	母集団統計値の推定(母集団と標本、点推定と区間推定、母平均の推定)						
10	母集団統計値の推定(母比率の推定、母相関係数の推定)						
11	仮説検定①(仮説検定とは、母平均に対する検定)						
12	仮説検定①(母比率の検定、標本相関係数と母相関係数の比較)						
13	仮説検定②(平均値の差の検定、比率の差の検定)						
14	仮説検定③(適合度の検定、独立性の検定、対応のある2標本の比較)						
15	試験						
成績評価方法							
授業内テスト 40% 課題 60% (配分は初回の授業で決めます) ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
統計学が最強の学問である		西内啓		ダイヤモンド社		978-4478022214	
社会統計学		海野道郎・中村隆 訳		ハーベスト社		4-938551-12-8	
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
講義後に質問等受け付けます。または、メールにてご連絡ください。(ran-nakao@hiroshima-u.ac.jp)							

授業科目名	組織行動論						
担当者	富樫誠二・平岩和美					履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 包括的に組織行動に関する用語や知識を身につける。保健学分野におけるヒューマンサービス職が所属する組織行動について、その特有性や独自性について学ぶ。組織行動において、必要なマネジメントの知識を学修する。							
(到達目標)							
1. 組織について理解する。							
2. 組織行動について理解する							
3. 組織行動としてのマネジメントを理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
事前に配布する資料を読んでから授業に臨むこと。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	ヒューマンサービス職とは何か? どのような特性があるのか?						富樫
2	主な組織理論の変遷について概観する。						平岩
3	ヒューマンサービスにおける組織特性について学修する。						富樫
4	組織における行動特性について: 組織の中でひとが個人として、集団としてどのような態度をとり行動するかについて理解を深める。						平岩
5	リーダーシップとは何か、リーダーシップの重要性、代表的なリーダーシップモデルについて概観する。						富樫
6	組織における構成員のモチベーションの維持するものとして、人を行動に駆り立てる力となる動機づけの基礎概念とその主要な理論について概観する。						富樫
7	組織文化の基本概念、組織における文化の機能や役割、強い組織文化について学修する。						富樫
8	組織とストレス: 組織におけるストレス・モデル、ストレス研究の意義と課題について学修する。						富樫
9	学習する組織: 組織における学習の重要性について理解を深める。						平岩
10	組織の変革: 自己革新を続ける企業の事例を通じて、組織変革のプロセスや促進要因について学修する。						平岩
11	人的資源マネジメントとは何かについて、その特徴や諸制度について概観する。						富樫
12	ヒューマンサービス職における人的資源マネジメントについて学修する。						富樫
13	ヒューマンサービス食において管理者・指導者に求められる役割について学修する。						富樫
14	ヒューマンサービス職において管理者・指導者に求められるマネジメント能力について						富樫
15	総括: 本科目で講義してきた基本的事項を再度説明し、試験について説明する。						富樫
成績評価方法							
レポート課題 100%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
現代組織論		田尾 雅夫		勁草書房		ISBN-10: 4326602465	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※授業内に適宜紹介します。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
E-mail 若しくはオフィスパワーを活用してください。							

授業科目名	保健学教育論						
担当者	原 賢治・北原 悦子					履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) この授業は基礎教育課程の学内教育、卒後教育における学生の臨床・臨地実習教育、現任教育において、教育心理学的項目（「学習動機」、「学習方法」、「自己効力感」、「メタ認知」等）、リハビリテーション心理学的項目（「障害受容」、「社会受容」等）、及び「国際生活機能分類」における思考過程を軸に教育理論と教育実践を結びつけることをテーマとして保健・医療教育を考える。看護教育では教育の概念、教育の対象、教育的機能を果たすための基盤となる知識を学ぶ。看護学基礎教育－卒後教育（大学院課程）－継続教育（現任教育）の歴史的変遷及び現状と課題について理解を深める。							
(到達目標) 1. リハビリテーション科学・看護学教育における授業展開を支える理論を理解する。 2. 授業設計と授業の組織化、教育目的・目標の設定、授業計画書の作成、教育評価等、授業展開に必要な基礎知識を理解する。 3. 講義および演習という形態の授業を参加観察し、授業展開に関する学習内容を述べる。 4. 授業設計、準備、実施、評価の過程を参加観察し、授業展開に必要な普遍的要素を理解する。 5. 講義および演習という授業形態における教授＝学習過程の特徴を説明する。 6. 参加観察に必要な知識・技術・態度を理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業で学んだことを踏まえ、新たに文献を探し、知識を深めるなどしてほしい							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	成人教育の意義と自己主導型学習について						原 賢治
2	教育目標と分類体系（タクソノミー）とその教育的活用について						原 賢治
3	教育心理学（学習動機、学習方法、自己効力感、メタ認知 等）について（1）						原 賢治
4	教育心理学（学習動機、学習方法、自己効力感、メタ認知 等）について（2）						原 賢治
5	教育心理学（学習動機、学習方法、自己効力感、メタ認知 等）について（3）						原 賢治
6	リハビリテーション心理学に対する教育上の方向性について						原 賢治
7	国際生活機能分類に対する教育上の方向性について						原 賢治
8	原 賢治 -まとめ / 北原 悦子 -我が国における医学・保健学教育制度の変遷						原 賢治/北原 悦子
9	教育における教育理念とカリキュラム						北原 悦子
10	教育における学習理論						北原 悦子
11	効果的な教育方法						北原 悦子
12	効果的な教育方法						北原 悦子
13	教育評価						北原 悦子
14	臨床・臨地実習と教育						北原 悦子
15	諸外国の関連領域の教育						北原 悦子
成績評価方法							
レポート 100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
資料をその都度配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
北原「看護教育学」第5版 ※授業内において、その都度紹介		杉森みどり 舟島なをみ		医学書院			
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
原賢治:質問等は研究室在室時に対応、連絡は大学への電話、また E-mail(khara@hcu.ac.jp)で行なってください。 北原悦子:E-mail(etsuko@hcu.ac.jp)若しくはオフィスアワーを活用してください。							

授業科目名	ヘルスプロモーション論						
担当者	藤村昌彦・山口扶弥					履修区分	選択
開講年次	2年次	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 平均寿命が長くなり、少子化が進むにつれ、社会の中で高齢者の占める割合が増えている。高齢者の割合が多い傾向は先進国を中心に進んでいる。わが国は先進国の中でも群を抜いて「高齢化率」が高くなっている。単に平均寿命を延伸するだけでは、QOLを向上することはできない。いかに健康寿命を延伸するかが課題である。本講義では、このヘルスプロモーションの理念を学ぶとともに、高齢者の健康とQOLを高めるためのライフスタイル及びヘルスプロモーションを実践するための知識を習得する。							
(到達目標) ・医療従事者として、予防的見地からアプローチして健康を享受することできるように指導・援助ができる。 ・生活習慣病予防を主体とする身体作りの指導方法を修得している。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
配布資料について、予備の配布は行いませんので、紛失等した場合は、各自の責任において、他の学生からコピー等してもらってください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	ヘルスプロモーションとはいかなる学問か？						藤村
2	廃用症候群の本質を理解して健康増進に導く						藤村
3	健康寿命とロコモティブシンドロームの関係						藤村
4	骨粗鬆症は予防できることを理解する						藤村
5	寝たきり原因の第一位である脳血管疾患を理解して健康寿命を伸ばす						藤村
6	日本人の80%以上が経験する腰痛症を予防して健康増進につなげる						藤村
7	膝関節症は活動性を低下させてQOLに影響を及ぼす						藤村
8	勤労者のヘルスプロモーション(産業衛生)について						藤村
9	「健康日本21」・「健やか親子21」政策の現状について①						山口
10	「健康日本21」・「健やか親子21」政策の現状について、②						山口
11	ライフステージ別の健康課題と取り組み①						山口
12	ライフステージ別の健康課題と取り組み②						山口
13	人々の健康ニーズに基づく地域保健活動における実践事例とその検討						山口
14	人々の健康ニーズに基づく地域保健活動における実践事例とその検討②						山口
15	人々の健康ニーズに基づく地域保健活動における実践事例とその検討③						山口
成績評価方法							
試験(50%)及び課題(50%)により評価							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※適宜資料配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※その都度紹介します。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
藤村昌彦:masafuji@hcu.ac.jp 山口扶弥:yamaguchi@hcu.ac.jp							

授業科目名		認知症支援論					
担当者		谷川良博				履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 日本の高齢社会は諸外国に比べて急速に進んでいる。特に認知症高齢者の増加と社会的課題が明らかになってきている。例えば、地域では単身高齢者の増加、高齢ドライバーによる事故の増加、徘徊後の行方不明者の増加などである。これら諸課題に対しての最近の施策、コミュニティの動向などを学ぶとともに、認知症高齢者の生きがいと日常生活の関連要因について考え、具体的にどのような方策が有効であるかを学修する。							
(到達目標) ・日本における認知症施策について理解する。 ・コミュニティの動向について学び、どのような援助が必要かを考えることができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
認知症施策や介護保険の動向は変化していく。そのため、授業前には単元の予習を参考書等で行ってもらいたい。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	認知症に関する日本の動向を学ぶ。(認知症初期集中支援チームや認知症カフェなど)						谷川良博
2	認知症ケアの連携体制を構築するための福祉と保健領域知識と技術について整理する。						谷川良博
3	認知症支援のための医療領域の知識と整理を行う。						谷川良博
4	社会資源の活用に関連した法規について体系的に学修し、整理する。						谷川良博
5	認知症ケアの家族支援について学修する。						谷川良博
6	家族会運営体制及び方法や、家族会における面談の技術について学修する。						谷川良博
7	地域支援(認知症カフェ、認知症図書館など)の実際について事例を通じて学修する。						谷川良博
8	地域支援、家族支援に関する知識について体系的に整理する。						谷川良博
9	認知症支援のための福祉用具の知識について整理する。						谷川良博
10	認知症支援のための住宅改修のための基礎知識について学修する。						谷川良博
11	認知症予防に対する支援方法について学修する。						谷川良博
12	認知症ケアに関する各種ケア技法について体系的に整理する。						谷川良博
13	事例検討(アルツハイマー型認知症の事例)によるケーススタディを行う。						谷川良博
14	事例検討(レビー小体型認知症の事例)によるケーススタディを行う。						谷川良博
15	認知症予防に向けたプログラム作成方法について学修する。						谷川良博
成績評価方法							
授業での発言や積極性 30% レポート提出 70% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名	著者	出版社	ISBNコード				
※教科書は指定しません。プリントを配布します。							
参考書							
書名	著者	出版社	ISBNコード				
基礎からわかる軽度認知障害	鈴木隆雄	医学書院	978-4-260-02080-0				
認知症の行動と心理症状	日本老年精神医学会	アルタ出版	978-4-901694-54-4				
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
講義後に質問を受け付けます。また、E-mail 若しくはオフィスパワーも活用してください。							



授業科目名	補完代替医療						
担当者	田丸政男・大塚彰					履修区分	選択
開講年次	2年次	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 統合医療とは、全人的健康観に基づき、近代医療のみならず伝統、相補、代替療法などあらゆる療法を利用して、自然治癒力に着目して、最も適切な治療法を選択するという患者中心の医療といえる。本授業では、統合医療の概念と現状について解説し、統合医療の重要な構成要素である補完代替医療の各種治療法について概説する。また、補完代替医療の有効性と安全性について批判的吟味の重要性についても解説する。							
(到達目標) 各種の補完代替医療の実際についての知識を収得する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・提供された資料を熟読すること							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	統合医療の概念を解説する。とくに、補完代替医療の各種のセオリーについて教授し、その功罪に関しても適切さを強調して解説する。						田丸 政男
2	補完代替医療の効果などの評価方法について教授する。とくに、生理学的評価および心理学的評価に関して教授する。						田丸 政男
3	動物介在療法について①ドッグセラピーに関して、獣医師の立場から解説していく。介助犬や盲導犬に関するも教授する。						田丸 政男
4	動物介在療法について②乗馬セラピーに限局して、獣医師の立場から今まで展開してきた実例を紹介し、その評価の実際を示す。						田丸 政男
5	森林セラピーについて概説する。森林内における五感の刺激による生理的な作用および心理的な反応による副交感神経の活動からのリラクゼーションについて教授する。併せて、これらの評価手法についても学修する。						大塚 彰
6	海浜セラピーについて概説する。森林セラピーと同様の事項に関して述べていく。加えて、運動効果にも着目して、砂浜ウォークの運動学的特色を含めて教授する。						大塚 彰
7	海浜セラピーの一手段と捉えている砂浜歩行について紹介する。裸足歩行の効果としての足ゆびの重要性について、実験結果などを紹介する。						大塚 彰
8	園芸療法について概説する。植物の力をリハビリテーションの効果への反映や大きく地域づくりの観点からも教授する。アレンジメントなどの体験も展開する。						大塚 彰
成績評価方法							
期末試験の成績で評価する(100%)。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※授業内において、適宜資料を配布します。							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※その都度、紹介します。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。 メールにて予約したうえで、研究室に直接訪問してください。							

授業科目名	脳神経機能論						
担当者	宮崎洋幸					履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要)							
<p>人間の思考、感情、言語、感覚、運動、呼吸・循環等生体リズムは脳・神経系によって統御されているが、自立して生活するためには少なくとも脳の機能を維持する必要がある。特に地域での在宅医療においては、医療者間で対象者各人の脳機能・身体情報を適切に評価し、共有し、連携してケアやリハビリテーションなど対応をする事が必要である。</p> <p>本講義では、「運動と高次脳機能」、「運動系と感覚系」、「コミュニケーションの脳内メカニズム」、「生体信号と精神」などの脳のシステムに焦点を当て、それらを司る脳・神経機能について、脳科学の観点から探求する。また、人間の認知過程である「知覚」「注意」「記憶」「言語」といった高次神経機能障害に対する神経リハビリテーションについて学び、近年の神経科学の知見に基づいた根拠ある神経リハビリテーションの検証が可能となる能力を涵養する。</p>							
(到達目標)							
近年の脳神経科学の知見に基づいた根拠ある神経リハビリテーションの検証が可能となる能力を身につける。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
テーマについて講義と討論形式を取り入れ進めます。事前に、教科書を一読して講義に臨んで下さい。(宮崎)							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	脳解剖学と機能局在学特論						宮崎洋幸
2	脳機能局在と症候学特論						宮崎洋幸
3	高次脳機能:障害と病態論						宮崎洋幸
4	運動機能:中枢神経障害と病態論						宮崎洋幸
5	運動機能:末梢神経障害と病態論						宮崎洋幸
6	感覚・運動機能の障害と病態論						宮崎洋幸
7	自律神経機能:生体リズム評価と応用						宮崎洋幸
8	認知神経科学の誕生とこれまでの展開						宮崎洋幸
9	注意の情報処理モデルと注意障害						宮崎洋幸
10	記憶の現象学						宮崎洋幸
11	言語の進化とコミュニケーションの脳内メカニズム						宮崎洋幸
12	脳の複雑系によって実現される運動学習						宮崎洋幸
13	脳科学的知見の解釈によるリハビリテーション治療への応用と意義						宮崎洋幸
14	脳科学的知見によるリハビリテーション治療の検討・演習1						宮崎洋幸
15	脳科学的知見によるリハビリテーション治療の検討・演習2/統括						宮崎洋幸
成績評価方法							
<p>討論等への参加度 30%, レポート課題 40%, リアクションペーパー30%とする。</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
リハビリテーションのための脳・神経科学入門		森岡 周		協同医書出版社		4-7639-1042-6	
リハビリテーションのための認知神経科学入門		森岡 周		協同医書出版社		4-7639-1045-0	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
脳神経科学		Mark.F.Bear 他		西村書店		978-4-89013-356-7	
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
宮崎研究室:西風新都キャンパス; <a href="mailto:miyazhiroy@hcu.ac.jp">miyazhiroy@hcu.ac.jp</a>							

授業科目名	地域生活支援学特論						
担当者	近藤敏・大塚彰・田丸政男					履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 家庭を基盤に地域で生活している人への看護・リハビリテーションの知識と技術をレビューする。対象はこどもから高齢者に至るまで、また急性期、維持期、終末期まで、身体・精神障害、難病等さまざまである。さらに介護保険や自立支援法、地域包括システムなど個人や家族を支えていくためのフォーマル・インフォーマルな社会資源にも触れながら在宅生活支援のための看護・リハビリテーションについて学修する。とくに、制度的なソフト・ウェア面と生活を支える用具のハード・ウェア面および在宅生活を豊かにするためのハート・ウェアから学修する。							
(到達目標) 在宅生活支援のための知識と技術を獲得する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・提供された資料などは熟読しておくこと。</li> <li>・日々のマスコミなどの情報に目を通しておくこと。</li> </ul>							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	地域リハビリテーションにおける支援をとくに、作業療法的観点からその方法論や実勢に関して教授していく。						近藤 敏
2	地域リハビリテーションにおける支援、とくに、介護保険における支援について、院背の経験を含めて考察していく。						近藤 敏
3	介護保険における、ソフト面での支援を学ぶ。						近藤 敏
4	介護保険における支援地域包括システムにおける支援を、法的な面も含めて、文献的あるいは実践的に考察する。						近藤 敏
5	地域包括システムにおける支援を理解していく。						近藤 敏
6	地域包括システムにおける支援を理解する。						近藤 敏
7	ユニバーサル・デザイン、共用品デザインについてについて概論的に解説し、例示して理解を深める。						大塚 彰
8	ユニバーサル・デザイン、共用品デザインについて実際の例を提示して、現場での活用を目指せるよう教授する。						大塚 彰
9	福祉用具に関して、義肢装具の領域にポイントをおいて解説する。とくに、最近の義肢と電動義手の紹介をする。						大塚 彰
10	福祉用具の一つと考えられる、ロボットに関する解説を行う。介護用のロボットから治療用ロボットに至るまでを解説する。						大塚 彰
11	福祉住環境を福祉用具の使用の面からも教授し、臨床(訪問)で活用できるよう、事例を提示して教授する。						大塚 彰
12	福祉住環境に関して疾患からの観点で住宅改造などのポイントを教授し、実際の現場で活用できる知識をつけるようにする。						大塚 彰
13	総合医療概要を解説し、現場での活用に関しての知識を教授する。						田丸 政男
14	各種補完医療について解説して理解を深める。例えば、動物介在療法としての、いわゆるアニマルセラピーから介助犬に関してである。						田丸 政男
15	各種補完医療についてその評価手技(心電図・唾液アミラーゼ分析・血圧・心拍・心理的検査など)を教授する。						田丸 政男
成績評価方法							
与えられた課題に対するレポートから評価する(100%)。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※授業内に資料配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※その都度紹介							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。 メールにて予約したうえで、研究室に直接訪問してください。							

授業科目名	地域生活支援学演習						
担当者	近藤 敏・大塚 彰・田丸 政男					履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	後期	授業回数	30回	単位数	2単位
<b>授業の概要・到達目標</b>							
(概要) 家庭を基盤に地域で生活している人への看護・リハビリテーションの実際、在宅生活支援のための地域援助システムの実際について討論する。また、通所・訪問における評価・介入法、福祉機器の導入、家族指導、社会資源の活用等事例をあげ討論する。また、多職種と連携し地域ケア会議等で助言できる能力や地域連携のリーダーとしての資質について議論する。							
(到達目標) 実際の地域生活の支援ができるようになる。							
<b>履修における注意事項(受講ルールなど)</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に討議・実習などには参加して下さい。</li> <li>・提供された資料などはよく熟読しておいて下さい。</li> </ul>							
<b>授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。</b>							
回数	講義内容						担当者
1	生活行為の自律に向けたマネジメントの事例検討(訪問を中心に)を資料と個々の院生の経験などから討論していく						近藤 敏
	生活行為の自律に向けたマネジメントの事例検討(通所を中心に)を資料と個々の院生の経験などから討論していく						
10	生活行為の自律に向けたマネジメントの事例検討(福祉施設を中心に)を資料と個々の院生の経験などから討論していく						近藤 敏
11	ユニバーサル・デザイン手法による自助具デザインの事例検討を模擬の対象者を設定して討論して、有効性を検討する。						大塚 彰
	福祉住環境整備の事例検討(福祉住環境 2 級程度の認定資格を目指す)を例を挙げてデザインする。						
20	人間工学手法を教授し、その手法を使って福祉用具をデザインしてみる。とくに、広島の地の発祥の感性工学の手法も教授する。						大塚 彰
21	重度障害児・者の在宅生活を豊かにする補完代替医療について文献的な考察を行ってまとめていき発表・討論する。						田丸 政男
	重度障害児・者の在宅生活を豊かにする補完代替医療の効果判定としての、生理学的評価の実践(心拍変動など)および心理的評価の方法を実践していく。						
30	重度障害児・者の在宅生活を豊かにする補完代替医療の効果判定を運動学的な評価の手法(EMG など)を検討して、機能の回復としての意義を知る。						田丸 政男
<b>成績評価方法</b>							
レポートから評価する(100%)。							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
<b>教科書</b>							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
※授業内に、適宜資料を配布します。							
<b>参考書</b>							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
※その都度紹介します。							
<b>教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。</b>							
メールにて予約したうえで、研究室に直接訪問してください。							

授業科目名	健康増進・障害予防学特論						
担当者	藤村昌彦・山口扶弥・加藤みわ子・甲田宗嗣					履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) WHOの定義によると「健康とは単に病気ではない、虚弱でないというのみならず、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態を示す」とある。我々を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、疾病の構造も感染症などから慢性期疾患へと変化し、生活習慣病が死亡原因の主流を占めている。予防の概念に基づき、疾病予防、健康増進への方法論、保健医療についての知識を修得する。							
(到達目標) 健康増進・障害予防について学び、対策や予防について考えることができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
配布資料について、予備の配布は行いませんので、紛失等した場合は、各自の責任において、他の学生からコピー等をしてもらってください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	健康増進・障害予防学を学習する意義と学習方法についてオリエンテーションをする。						藤村
2	わが国における健康寿命の現状と課題に関して、資料を作成し提供し討論的に理解を深めていく。						藤村
3	ロコモティブシンドロームが健康増進に及ぼす影響を文献を提示して考察していく。						藤村
4	障害予防の見地から骨粗鬆症に関して教授し臨床に生かせるように解説する。						藤村
5	各ライフステージにある人の健康課題解決に向けた健康支援について理解する。						山口
6	各ライフステージにある人の健康課題解決に向けた健康支援について考察する。						山口
7	健康増進における個人・集団・組織レベルでの支援方法について理解する。						山口
8	実践の場における健康増進支援について討議する。						山口
9	健康増進の実践における個人レベルでの方法論について検討する。						加藤
10	健康増進の実践におけるレベルでの方法論について、理解しやすい資料を作成し提供する。						加藤
11	健康増進の実践における地域レベルでの方法論について例示して討論する。						加藤
12	健康増進の実践における職域レベルでの方法論について、個々の院生の経験を含めて紹介し、討議していく。						加藤
13	身体障害の重度化予防の重要性について考察していく。						甲田
14	身体障害の重度化予防の実践例を紹介して討議していく。						甲田
15	身体障害の重度化予防の効果検証の手法を文献から作成した資料に基づき、積極的に討論していく。						甲田
成績評価方法							
試験(50%)及び課題(50%)により評価 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※適宜資料配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※その都度紹介します。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
藤村昌彦:masafuji@hcu.ac.jp 山口扶弥:yamaguchi@hcu.ac.jp 甲田宗嗣:kota@hcu.ac.jp							

授業科目名		健康増進・障害予防学演習					
担当者	藤村昌彦・山口扶弥・加藤みわ子・甲田宗嗣					履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	後期	授業回数	30回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 健康増進・障害予防学特論にて学んだ知識をふまえ、関連領域の調査・研究論文を検証しプレゼンテーションを行う。保健医療分野の課題やトピックスと照合しながらディスカッションを通して、実践に向けた能力を養う。							
(到達目標) ・健康増進・障害予防に関連するテーマについての実践力が身に付いている。 ・本授業で深めた研究内容や方法論について、各自の研究テーマへつなげて展開できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
配布資料について、予備の配布は行いませんので、紛失等した場合は、各自の責任において、他の学生からコピー等してもらってください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	健康増進・障害予防学演習の進め方を説明する。			16	個人・家族・地域のエンパワメントを支援する効果的な支援方法について発表・討議する		
2	健康増進・障害予防の課題の例を挙げて検証する。			17	当該領域に関わる国内外の研究論文の読解① (文献は提供する)		
3	現在のトピックであるロコモティブシンドロームと健康増進について資料を提供し教授する。			18	当該領域に関わる国内外の研究論文の読解② (文献は提供する)		
4	運動器(筋系)課題に関して検証して発表し討議する。			19	当該領域に関わる国内外の研究論文の読解③ (文献は提供する)		
5	骨粗鬆症が引き起こす障害とその予防について資料を提供して教授する。			20	当該領域に関わる国内外の研究論文の読解④ (文献は提供する)		
6	運動器(骨系)課題に関して検証して発表する			21	当該領域に関わる国内外の研究論文の読解⑤ (文献は提供する)		
7	運動器の健康増進を教授する。			22	当該領域に関わる国内外の研究論文の読解⑥ (文献は提供する)		
8	健康寿命について検証して発表し討議する。			23	当該領域に関わる国内外の研究論文の読解⑦ (文献は提供する)		
9	関心をもつテーマに関連する健康課題について、既存データ及び文献を用いてまとめる			24	当該領域に関わる国内外の研究論文の読解⑧ (文献は提供する)		
10	まとめられた健康課題と支援方法について発表し討議する			25	身体障害の重度化予防の重要性を文献的に調査しまとめる。		
11	関心をもつテーマに関連する健康課題について、既存データ及び文献を用いてまとめる			26	まとめられた、身体障害の重度化予防の重要性を発表し討議する。		
12	まとめられた健康課題と支援方法について発表し討議する			27	身体障害の重度化予防の実践例を文献的に調査しまとめる。		
13	関心をもつテーマに関連する健康課題について、既存データ及び文献を用いてまとめる			28	まとめられた、身体障害の重度化予防の実践例を発表し討議する。		
14	まとめられた健康課題と支援方法について発表し討議する			29	身体障害の重度化予防の文献的に得られた検証手法を選択しまとめる。		
15	個人・家族・地域のエンパワメントを支援する効果的な支援方法について発表・討議する			30	まとめられた身体障害の重度化予防の検証手法を発表・討議する。		
成績評価方法							
討議等への参加・貢献度を30%、プレゼンテーションを40%、およびレポートを30%とする ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※適宜資料配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※その都度紹介します。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
藤村昌彦:masafuji@hcu.ac.jp、山口扶弥:yamaguchi@hcu.ac.jp、甲田宗嗣:kota@hcu.ac.jp							

授業科目名		保健学教育特論					
担当者		原 賢治・北原 悦子・丹羽 敦				履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 大学におけるカリキュラムで重要な位置を占める学外臨床実習に関するこれまでの文献をレビューし 検討する。また、次世代の医療職従事者に不可欠となる臨床家との連携についても討論する。また、看護・リハビリテーション領域の基礎教育-卒後教育-現任教育において、効果的な教育を行うための教育方法の展開、及び開発について検討する。							
(到達目標) (原 賢治) 効果的な臨床教育の基盤となる学内教育システム、また学内における具体的な教育方法やその特徴および効果について理解している。 (北原 悦子) 効果的な教育方法の基盤となる理論やその特徴、およびICTを活用した教育の具体的方法とその効果について理解している。 (丹羽 敦) 効果的な臨床(地)教育の基盤となる臨床教育システム、また具体的な臨床(地)実習・新人教育の指導論や具体的方法およびその効果について理解している。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
(原・北原・丹羽)課題の提出期限を厳守。講義内容への質問、自分なりの意見等を積極的に発言すること。 (北原)事前事後に文献レビュー等により、関連文献の精読に努める。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	教育心理学を基盤とした教育方法とその意義を理解しやすく資料を作成して、討議していく。						原 賢治
2	成人教育理論を基盤とした教育方法とその意義を理解しやすく資料を作成して、討議していく。						原 賢治
3	教育目標と分類体系(タキシミー)とその教育的活用について理解しやすく資料を作成して、討議していく。						原 賢治
4	一般的な保健学を学ぶ学内教育方法とその特徴について理解しやすく資料を作成して、討議していく。						原 賢治
5	学内教育におけるカリキュラム及び評価の特徴について理解しやすく資料を作成して、討議していく。						原 賢治
6	基礎教育-卒後教育-現任教育(継続教育)の特徴について看護学を中心として教授していく。						北原 悦子
7	教育方法論、教材開発に関する時代的変遷と基本となる理論を教授する。						北原 悦子
8	ICTを活用した教育の具体的方法① e-ラーニングについて理解しやすく資料を作成して、討議的に教授する。						北原 悦子
9	ICTを活用した教育の具体的方法② ブレンデッドラーニングについて理解しやすく資料を作成して、討議的に教授する。						北原 悦子
10	ICTを活用した教育の評価にかんして討論形式で展開する。						北原 悦子
11	保健医療分野における臨床(地)教育の変遷と現状に関して、院生の経験を含めて討議していく。						丹羽 敦
12	基礎教育-卒後教育-現任教育における理学療法士・作業療法士の臨床教育の意義について考察していく。						丹羽 敦
13	臨床(地)実習の教育システム(実習形態・到達目標)について、討議していく。						丹羽 敦
14	臨床(地)教育指導方法論1(臨床教育プロセスと指導のポイント)に関して、理解しやすく資料を作成して、討議的に教授する。						丹羽 敦
15	臨床(地)教育指導方法論2(ティーチング・コーチング等)について、理解しやすく資料を作成して教授する。						丹羽 敦
成績評価方法							
(原・北原・丹羽)講義姿勢(文献発表、ディスカッション等)50%、レポート等課題50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
(原・北原・丹羽)適宜、資料配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
(原・北原・丹羽)随時紹介							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。 原賢治:質問等は研究室在室時に対応、連絡は大学への電話、またメール(khara@hcu.ac.jp)で行う。 北原悦子:連絡は大学への電話、またメール(etsuko@hcu.ac.jp)で行う。 丹羽敦:質問等は研究室在室時に対応、連絡は大学への電話、またメール(niwa@hcu.ac.jp)で行う。							

授業科目名		保健学教育演習					
担当者		北原悦子・丹羽敦				履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	後期	授業回数	30回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 臨床家と大学教員(臨学共同)による臨床実習形態の構築と臨床実習における学生の到達目標・指導内容の標準化等について、医師や薬剤師と比較しながら議論する。実習指導者のためのガイドラインや学生に対する指導法、また臨床実習指導者会議や生涯教育のあり方等について議論する。演習で基礎教育及び現任教育の教育担当者に対し、その施設の条件に応じた具体的な授業案や研修企画案を作成し、教育方法論の検討及び評価、次回の改善点に至るまでの能力を学修する。							
(到達目標) (北原・丹羽)①保健医療専門職の臨床教育に関する効果的な指導法論について、新しい知見を述べることができる。 ②専門的な実践力に向上に繋がる臨床教育システムについて立案することができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
(北原・丹羽)自分の目指す、専門職像、およびそれに繋がる基礎教育、臨床教育に関する現状の課題・疑問をあらかじめ整理しておく。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	【講義】 ・学部1年生を対象に開講される「看護学概論」(15回)、1年生対象の「生活援助技術学」(30時間)の授業を教授者側から参加観察(参加型)する。						北原悦子
2	授業準備、教材の作成等に関わり、授業準備の実際を体験する。						北原悦子
3	毎回の授業終了後、アフターセッション(各1時間)への参加を通して、授業展開に必要な普遍的要素および教授＝学習過程の特徴について検討する。						北原悦子
4	準備学習: 毎回、授業計画を参考に教科書の該当箇所を精読し、授業内容に関する理解を深め授業に参加する。						北原悦子
5	参加観察法について学習し、観察の目的および自己の課題を明確にして授業に臨むこととする。						北原悦子
6	基礎看護教育の1科目を模擬的に授業案作成をする						北原悦子
7	基礎看護教育の1科目を模擬的に授業案作成をする						北原悦子
8	基礎看護教育の1科目を模擬的に作成した授業案について、発表し討議して、作成した授業案の問題点などを検討する。						北原悦子
9	任意の施設の院内研修の現状と課題を検討する						北原悦子
10	院内研修の企画・実施・評価案を検討する						北原悦子
11	院内研修の企画・実施・評価案を検討する						北原悦子
12	院内研修の企画・実施・評価案を検討する						北原悦子
13	検討してきた院内研修の企画・実施・評価案につき、予行演習を行って、再検討を行い、検討する。						北原悦子
14	実際に所属の施設などで実践する。						北原悦子
15	実践の結果に対して評価を行い、その成否を考察する。						北原悦子
16-22	保健医療の臨地(床)実習に関する、到達目標、指導方法、学生評価、教員との連携等について議論し、プロフェッショナリズムの育成に向けた課題について整理し、臨地(床)実習指導のあり方について自分なりの見解を整理する。						丹羽敦
23-30	1. 専門職育成に向けた臨地(床)実習(実習へ向けた学内指導方法でもよい)に関する研究課題に関する先行研究の内容をまとめて、発表形式で意見交換を行う。 2. 研究課題に関しての意義を深め、調査方法を検討する。 3. テーマに関しての研究デザイン、分析方法について学ぶ。						丹羽敦
成績評価方法							
演習への参加姿勢(ディスカッション、プレゼンテーション、成果物等)50%、レポート50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
看護学教育における授業展開一貫の 高い講義・演習・実習の実現に 向けて一、		舟島なをみ監修:		医学書院, 2013.			
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※その都度紹介							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
北原悦子: 連絡は大学への電話、またメール(etsuko@hcu.ac.jp)で行う。 丹羽敦: 質問等は研究室在室時に対応、連絡は大学への電話、またメール(niwa@hcu.ac.jp)で行う。							



授業科目名	組織マネジメント特論						
担当者	富樫誠二・北原悦子					履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) マネジメントの基本となるドラッカーの理論を学び、さらにマネジメントに必要な諸要素(人的資源・物的資源・財的資源・情報資源)について学修する。組織の中でマネジメント能力を発揮するための基本的な知識や方法を学修する。 さらに保健学分野におけるヒューマンサービス職の組織マネジメントについて、必要な知識や方法を学修する。							
(到達目標) 1. 組織とマネジメントについて理解する。 2. マネジメントの基本的知識を理解する。 3. 管理者として必要なマネジメントの方法論を理解する							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
教科書や前もって配布した資料を読んでから授業に臨むこと。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1	保健・医療・福祉の分野の組織の在り方やその行動について解説し、理解を深めていけるよう方向づける。						富樫
2	1回目の授業を受けて組織行動とマネジメントについて学修する。						富樫
3	マネジメントの概念と理論(P.F ドラッカー)に関する教材を提供して解説を展開する。マネジメントの理論を理解していく。						富樫
4	3回目の授業をより展開していくことでマネジメントの理論の理解を深めていく。						北原
5	マネジメントについて 組織人と個人について教授する。						富樫
6	財的資源マネジメントに関して						富樫
7	人的資源マネジメント 1・・・看護の組織において考察していく。						北原
8	人的資源マネジメント 2・・・リハビリテーションの組織において考察していく。						富樫
9	人的資源マネジメント 3・・・リハビリテーションの組織において考察していく。						富樫
10	病院などの組織における医療マネジメントについて考えていく。						富樫
11	管理者と必要となるマネジメント能力とは何か、を考察していき、自己の組織内での管理者としての資質をみがいていく。						北原
12	意思決定とマネジメント						富樫
13	患者を対象とする医療の現場や利用者を対象とする福祉の現場におけるリスクマネジメントについて教授する。						北原
14	マネジメントと倫理及び倫理的ジレンマについて考察していく。						北原
15	今後の考えられる現場での課題を提示して、院生の意識を高め、方向づけていくように解説する。						富樫
成績評価方法							
レポート課題 100%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	マネジメントマネジメント 基本と原則	P.F ドラッカー	ダイヤモンド	ISBN-10: 4478410232			
参考書							
	書名	著者	出版社	ISBNコード			
	組織で生きる: 管理と倫理のはざままで	勝原 裕美子	医学書院	ISBN978-4-260-03013-7			
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
富樫誠二: 質問等は研究室在室時に対応、連絡は大学への電話、またメール(togas88@hcu.ac.jp)で行う。 北原悦子: 連絡は大学への電話、またメール(etsuko@hcu.ac.jp)で行う。							

授業科目名		組織マネジメント演習					
担当者		富樫誠二・平岩和美				履修区分	選択
開講年次	1年次	開講期	後期	授業回数	30回	単位数	2単位
授業の概要・到達目標							
(概要) 特論の知識を基盤に、マネジメントが必要な事例について提示し、具体的なマネジメントの観点から検討する。組織におけるマネジメント能力を発揮するために必要な実践的な方法を学修する。フィールドワークなどを通して、マネジメントの実践について学修する。							
(到達目標) 1. 組織について必要なマネジメントとは何かを理解する。 2. マネジメントを妨げているものは何か、促進しているものは何かを理解する。 3. 現場でのマネジメントの現状を知る。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・教科書は用いないが、事前に配布する資料や文献をしっかり読んでから授業に臨むこと ・授業において議論に参加すること							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						担当者
1・2	組織の概念について説明し、それぞれの院生が所属する組織についてあらためて考察し、現状の組織の図式化などを行ってまとめる。						富樫
3・4	まとめた事例を踏まえて、理想とする組織像としてまとめて、その考えた組織について個々の院生が発表し議論することとする。						富樫
5・6	既存の組織におけるさまざまな問題点を列挙し、例示して解説を行う。解説を基盤としてそれぞれの院生が所属する組織について再考し、その問題点をまとめる。						富樫
7・8	それぞれの院生によりまとめられた組織における問題点について、発表・議論し、より良い組織としての問題点を解決していく。						富樫
9・10	具体的なマネジメントについて説明し、それぞれが所属する組織に照らし合わせて、現状の問題点とその解決策を考察する。						富樫
11・12	考察しまとめた具体的なマネジメントについて発表・討議する。1						平岩
13・14	1の討議から、より具体的なマネジメントについて発表・討議する。2						平岩
15・16	2の討議から、より深めた具体的なマネジメントについて発表・討議する。3						平岩
17・18	保健・医療・福祉の分野におけるマネジメントの課題を例示し、その対応策などを教授して、個々の院生の経験からの過大について討議する 1						富樫
19・20	1の討議をより発展させて、保健学分野におけるマネジメントの異なった課題を考え、討議する。2						平岩
21・22	1・2の討議をいかして、保健学分野におけるマネジメントの課題に対するとりまとめと解決策の提示を行う。3						平岩
23・24	医療現場でのフィールドワーク1 調査						富樫
25・26	福祉の現場でのフィールドワーク2 調査						平岩
27・28	フィールドワーク・調査の結果をレポートしてまとめを行う。						平岩
29・30	調査結果のまとめを発表するとともに、演習の振り返りを行う。						富樫・平岩
成績評価方法							
レポート課題 100%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※その都度資料配布							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
※その都度紹介							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
富樫誠二：質問等は研究室在室時に対応、連絡は大学への電話、またメール(togas88@hcu.ac.jp)で行う。							
平岩和美：質問等は研究室在室時に対応、連絡は大学への電話、またメール(hiraiwa@hcu.ac.jp)で行う。							